

高源寺だより

発行所
静岡市清水区高橋2丁目7-4
TEL (366) 2410
FAX (366) 2681

坐禅会

毎月第1・第2日曜日
6時開始。
(10月～5月は
6時30分開始です)

ご詠歌(無相教会)

花園流のご詠歌で
す。毎月3回練習。
年1回大会に出場し
ます。

五日講

たのしい集いです。
読経、おはなし、など。
毎月5日の午前10時。

写経会

毎月8日9時半読経
後、般若心経を書写
し納めます。

ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/kougenji/>

静岡 高源寺 検索

おせがき

山門施餓鬼

七月五日(木)

午前十時開式

(九時半より受付)

◆会費は一名につき二千元、当日
受付でいただきます。

(一家で何名でも可)

◆初盆のお宅へは、ご供養の塔婆
を差上げます。
(法要後各自のお墓へお供え下さい)

出席申し込みは

七月一日までに

☎三六六―二四一〇

お寺まで

「いのちの根っこ」



お寺の本堂の北側に大きなたぶの木が
あります。何年経ているかわかりませんが、
目に見えない根っこもその木にちがいがあ
りません。土深く広がった根っこによって大
きなたぶの木は支えられているように、私
たちの「いのち」もまたはるか原始時代か
ら続くご先祖様という根っこに支えられ生
かされていることに気づくでしょう。私た
ちはたぶの木の葉っぱのように青々として、
今、この瞬間を生きていると思っていれば、
決して見ることのできない根っこ(ご先祖
様)の支えによってつながら、全体の「い
のち」の最先端に生かされていたのです。
ひとつひとつの「いのち」かと思ったら、
全体の中にも含まれたひとつの「いのち」だ
ったのです。私たちは、ご先祖様や根っこ
のように目に見えないものに気づいた時、一
人では生きていけないんだなあと感動もで
てきます。そして、そんな目に見えない
根っこに感謝できる心を持ちたいものです。

初盆をお迎えになる方へ

●初盆のお宅へはお参りする日時を同封し
通知します。(都合の悪い方はご連絡下
さい)

●親族、縁者の方が早めにお参りされるこ
ともあるので、初盆の飾りつけはお盆の
月になったら用意して下さい。

●棚経の廻り順を七月一日より寺の玄関に
掲示しますのでご確認ください。

●お勤めやお宅の事情などで、お盆のお経
の都合のつかない方は、寺にて一件づつ
お経をあげますので、ご予約をお申し込
み下さい。その時に位牌をお持ち下さい。

【後述の「寺でのお盆のお経」の日程を 参照】



初盆以外の方へ

- 七月盆の方は八日、十五日に、八月盆の方は十三日、十五日にまわります。
- お盆の期間に非常に多くのお宅をまわりますのでみなさまにはご不便をおかけしますが御理解下さい。
- 棚経のお参り順が七月一日より寺の玄関に掲示されます。例年と変わることもありますので確認して下さい。

— お盆のお経にはたくさんのお宅をまわりますので、できるだけ順序よくうかがいたいと思います。以下を念頭に置いてお待ち下さい。

- 仏壇のお飾りはいつきてもよいように
- 棚経の時間にはカギをあけておく
- 読経後の飲みものは不要
- 住所変更などは早めにお寺へ知らせる

寺でのお盆のお経（平成二十四年）

（お申し込みの予約が必要です）

- 七月八日（日）午後一時より六時
 - 七月十三日（金）午後三時より六時
 - 七月十五日（日）午後三時より六時
- お勤めやお宅の事情などで、ご自宅へのお盆のお経の都合のつかない方は、寺にて一件づつお経をあげますので、ご予約をお申し込み下さい。その際はお位牌をお持ち下さい。

お盆の飾り、お供え

お盆飾りやお供えは高源寺の檀家の方の一例です。各家庭に慣習もあるかと存じますので、あくまで参考にしていただければ幸いです。尚、お仏壇と別に飾り壇にお供えしている方もいらっしゃいます。

お仏壇をきれいにしてお菓子や果物、華、好きだったものなどを供え、ご先祖やお亡くなりになった方をお迎えするお気持ちが大切です。そして亡き方に今一度思いを寄せることにより、ご自分自身を見つめなおしていただきたく思います。

— 飾る時期

- 早めにお経に廻らしていただく方以外も、十二日までは盆飾りをしておきましょう。
- 初盆のお宅は早めにお参りに来る方もいらっしゃるのです。お盆の月になりましたら用意しましょう。

— 飾る場所

- お仏壇の前に机などを置いてお飾りしても、お仏壇と別に棚を用意してお飾りしても結構です。
- 四十九日忌までお宅で使っていた飾り壇がある場合はそちらを使うのもいいと思います。

— 飾るもの

- 仏 具： お宅のご本尊さま、お位牌、蠟燭、線香、リンなど
- お供え物： 生花、お菓子、果物、野菜、乾物、故人の好物など
- その他： なすの牛、きゅうりの馬、水（洒水）、洗米など

お施餓鬼の七如来の五色旗（七月五日のお施餓鬼に來られた方にお渡しします）は、お飾りの上方に右から

- ・南無寶勝如来
- ・南無多寶如来
- ・南無妙色身如来
- ・南無廣博身如来
- ・南無離怖畏如来
- ・南無甘露王如来
- ・南無阿彌陀如来
- ・各家先祖代々各々重位の順で吊るして下さい。（蠟燭の炎にはくれぐれもご注意！）

他にホオズキなどを吊るす習慣もごさいま



お盆のお墓参り

- 迎え火は十二日か十三日の夕方に来られる方が多いです。送り火は十六日。十五日のところもあります。
- 迎え火はまずお墓の前でたいまつを焚き、次に自宅前で焚きます。送り火は自宅前だけで結構です。
- お墓に造花、ビン、缶、ペットボトルを供えている方は、ゴミ箱に入れずに自分でお持ち帰り下さい。
- 花ガラ、ビニール、紙類の分別にご協力をお願いします。

元檀徒総代

澤井 進さん逝去



去る三月十日、高橋東の元檀徒総代澤井進さんが八十六才で逝去されました。氏は、昭和五十九年三月より平成十年七月まで、十四年間にわたり総代を務められました。

坐禅会開始より参加され立派な体格で達磨大師を彷彿させる坐禅でした。又、信仰の旅観音霊場百ヶ寺の参拝等よく参加されました。平成四年には、私、住職の晋山式挙行、それに伴う鐘楼の建設、境内の整備、白壁の設営等、大事業に協力していただきました。感謝を捧げてご冥福を祈念いたします。

天龍寺
専門道場遠鉢

去る三月十三日、十四日、高源寺副住職が修行した京都嵐山の天龍寺専門道場より三名の雲水（修行僧）が遠鉢に来山されました。遠方での托鉢という意味で「遠鉢」といいます。

前回、高源寺での遠鉢は十三年前。そのとき私副住職は雲水として遠鉢に参りました。十三日、同じく天龍寺専門道場にて修行された清水区の法雲寺様方からこの高源寺においていただきました。まずは本堂にて高源寺を開いた開山さまである仏満禪師にお経をあげていただきました。

そして檀信徒総代さま、世話人さまのお宅七件へお彼岸のお参りさせていただきました。お参りさせていただいたお宅では雲水さん達の迫力ある読経に驚きや感動の声をいただきました。



この日は高源寺の檀信徒会館にて投宿していただきました。

そして翌日十四日の托鉢。雲水さん達が修行されている京都には八つの臨済宗の専門道場があり、各道場が十日に四回、決まった日に各地域を托鉢いたします。みなさんの中にも京都へ行かれた際、托鉢に出逢った方がいらつしやるのではないでしょう。臨済宗の托鉢では必ず看板袋というお寺の名前を記した袋をぶら下げています。今回も「天龍僧堂」という看板袋を下げて来られました。

私副住職もその看板袋をお借りして、朝九時より「ホーウホーウ」と声を響かせながら托鉢をさせていただきました。

この近辺には修行道場が無いので、みなさんが修行僧を目にすることは無いでしょう。托鉢をご覧になるのが初めてという方もいて楽しみにされていたようです。とても大勢の皆さまが喜捨のため沿道にて待つていて下さいました。そして約二時間の托鉢も終わり、お昼頃には京都の天龍寺専門道場へ出立されました。

今回、遠鉢に来ていただいた雲水さん達の姿に修行時代の思い出を重ねつつ、初心にたちかえる機会をいただきました。私が雲水当時に先輩から教えをうけたことがあります。「我々雲水が托鉢に出て声をあげる。すると街の人たちはその声を聞いて喜捨するために出てきて下さる。修行したくてもできない自分の代わりに修行してくれ

ている雲水さんに、自分の修行のつもりで喜捨をして下さっているのだ。ほんやりとしてはいられんぞ。」このように叱咤されたことがあります。

今回おいで頂いた三名の雲水さん、そして修行道場にいらつしやる他の雲水さん達は、皆さまをはじめ多くの人達に支えられているということを抱き、これから立派な和尚さま方になれることを信じております。

私も皆さまの大きな「支え」をしつかと胸に留め、雲水さん達に負けないよう精進してまいりたいと思います。



高源寺からのお知らせ

本年四月五日に、花まつりの降誕会と共に法話を催しました。本年は九州佐賀県より松雲寺柳原師が妙心寺より派遣されました。

師は三十九才。巡教は二回目で初々しく、一生懸命に本年の課題「行ずる」についてわかりやすく法話されました。



ご詠歌大会に出場

五月二十五日、静岡グランシップにて、静岡東教区奉詠大会が開催されました。高源寺支部では、二十四名が参加し、日頃の練習の成果を発表しました。

清掃奉仕のお願い

お盆を迎えるにあたり、七月二日午前八時半より大掃除を予定しています。本堂や会館の清掃をお願いします。

四国八十八ヶ所巡礼の旅

今秋十月九日から十二日に、第三回の四国八十八ヶ所巡礼の旅に出かけます。詳細は旅行者と相談中です。夏ごろには募集を始めます。

